

地域ケアに係る府政円卓会議の開催結果について（報告）

平成19年11月
京都府保健福祉部

幅広い府民の参画をいただきながら、次のとおり「府政円卓会議 ～地域ケアのあり方を考える～」を開催したところですが、その結果概要をとりまとめましたので、御報告します。

1 開催概要

日 時	第1回：平成19年9月14日（金） 18：00～20：00 テーマ：「これからの「見守り・支え合い活動」について」
テーマ	第2回：平成19年10月12日（金） 18：00～20：00 テーマ：「高齢者の在宅医療・介護サービスについて」
	第3回：平成19年10月17日（水） 18：00～20：00 テーマ：「高齢者が安心・安全に暮らせる多様な「住まい」について」
場 所	府庁NPOパートナーシップセンター会議室（府庁旧本館1階）
参加者数	延べ 約100名（各回 約30数名）
出席者	<p><コーディネーター>同志社大学 名誉教授 岡本 民夫 氏</p> <p><報告者></p> <p>第1回 加茂町高齢者見守り隊 葛谷 高明 氏 春日住民福祉協議会代表 高瀬 博章 氏 認知症の人と家族の会京都支部長 荒綱 清和 氏 フォーラムひこばえ事務局長 井上 公子 氏 曾我部町地区社会福祉協議会会長 服部 義行 氏</p> <p>第2回 北川内科医院院長 北川 靖 氏 京都府訪問看護ステーション協議会会長 福岩 洋子 氏 認知症対応型共同生活介護事業所真愛の家恵の里管理者 古森 久恵 氏 京都市岩倉地域包括支援センター管理者 井上 基 氏</p> <p>第3回 株式会社莫設計同人代表取締役 松村 正希 氏 特別養護老人ホーム丹後園施設長 上田 正治 氏 NPO法人住宅福祉サービス理事長 松村 明博 氏 宇治市介護相談員 橋本 榮子 氏</p>
結果の活用	<p>・報告者からそれぞれの活動概要を報告後、意見交換等を実施。 ＜主な意見は、裏面のとおり＞</p> <p>・会議で出された有効な提案・意見等については、今年度に策定予定である「京都府地域ケア確保推進指針」の内容に反映</p>

2 主な意見等

■ 第1回 「これからの「見守り・支え合い活動」について」

・主な意見

- ▷ 住民が生活する地域は、ある意味で「生き物」。地域の特性や環境の変化に対応しながら、住民がともに支え合う関係をつくることが重要。
- ▷ 活動が発生するきっかけは、災害等による地域課題の発生、ニーズに対応した活動場所の存在など、様々にある。
- ▷ 活動継続のためには気長に、楽しく行うことが大切。高齢者の支え合い活動でも、「こどもの参加」がポイントとなっているなど、みんなで積み重ねていける工夫や、活動情報の住民への提供等は不可欠。
- ▷ 地域での活動には、参加への動機づけ、活動の場やその機会の設定、そして、課題解決につなげるためのやる気や能力がある活動者がいることがポイント。そのため、「活動のリーダー役の養成」なども重要な視点。

■ 第2回 「高齢者の在宅医療・介護サービスについて」

・主な意見

- ▷ 府内の訪問看護ステーションについて、その経営基盤の脆弱さが指摘される中、一事業所のみで夜間・早朝、土・日、祝祭日等の在宅療養者のニーズに応えるのは困難。地域の複数ステーションがネットワーク化を図り、対応に当たる必要がある。
- ▷ 在宅医療を進める上で、地域の医療機関が連携しチームで医療を提供し、主治医を支援する体制構築が重要。それには医師会に加え、行政による支援が欠かせない。
- ▷ 利用者本人又はその御家族がどういったターミナルを望まれるかについて、介護にあたる全ての者が考えを共有する必要がある。
また、急変時等における円滑な対応に資するために、普段から利用者の御家族と信頼関係を築いておくことが大切。
- ▷ ケアマネジャー等へのアンケート結果から、実態として未だ医師と介護職の連携は進んでいないというのが実情。医療・介護が連携し利用者の主体性を重んじ、生活全般をケアするシステムの構築が求められる。

■ 第3回 「高齢者が安心・安全に暮らせる多様な「住まい」について」

・主な意見

- ▷ 高齢者だけでなく多世代が共に暮らせる、働くの場があるなど、まちぐるみになった住宅の建設が必要。また、日常的な金銭管理を支える法定後見人を増やすことなど、安心・安全な暮らしを作っていくためには、ソフト施策の充実が不可欠。
- ▷ 施設入所者を外部のディサービスに連れて行くことや、独居の軽度要介護者向けの高齢者専用賃貸住宅などを実践してきたが、当たり前前の生活を呼び戻すことが、生きる力につながる。その実践を支えるために、地域のネットワーク作りが重要。
- ▷ 古い家に住む高齢者が暮らしつづけるために改修の必要性を訴えても、改修されない場合が多いのが実状。これを打破するには、自分での使用が終わった後の資産活用（他の高齢者に貸す等）の仕組みなどができないか。
- ▷ 施設内部では利用者が暮らし方を自ら創ることができること、地域においては、高齢者に親切な、住まいの総合窓口があること等が望ましい。また、自宅と入所を一定期間交互に行い、いざというときに入居できる施設などができればよいと思う。